福島第一原子力発電所現地確認報告書

１　確認日

令和８年４月２０日（月）

２　確認箇所

多核種移送設備建屋（図１）

３　確認項目

多核種除去設備等処理水の試料採取状況

４　確認結果の概要

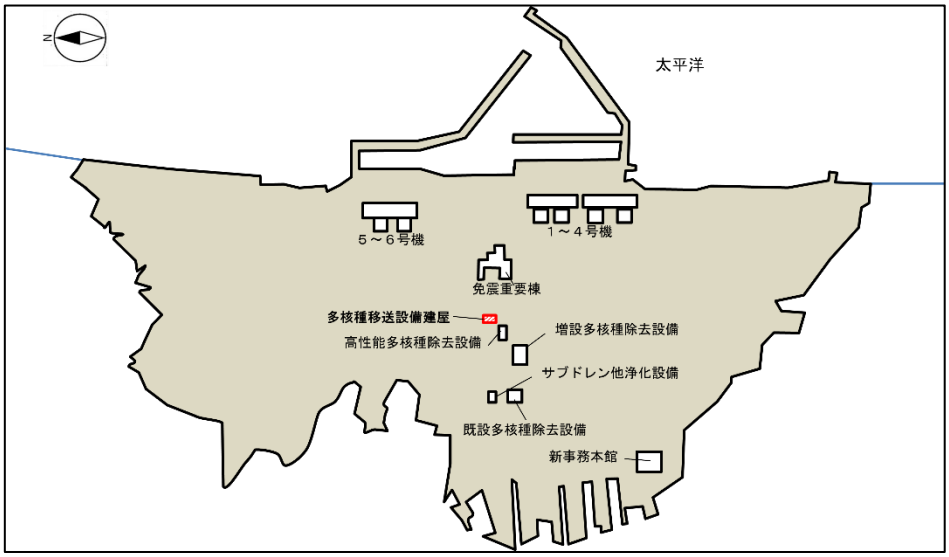
多核種除去設備等処理水（以下「ＡＬＰＳ処理水」という。）の海洋放出にあたり、東京電力では、希釈前のＡＬＰＳ処理水の放射性核種濃度や水質を測定し、トリチウム以外の放射性核種濃度が法令上の基準以下となっていることを確認している。また、トリチウムについても、ＡＬＰＳ処理水を海水で希釈した放流水について、法令上の基準(60,000 Bq/L)より低い運用目標基準（1,500 Bq/L)を設定し、当該基準値未満となっていることを確認し海洋放出を行っている。

今回、ＡＬＰＳ処理水の第２０回目（令和８年度第２回目）※の放出に向けて、放射性核種濃度等の測定に係る希釈前のＡＬＰＳ処理水の試料採取（サンプリング）が行われることから、その状況や手順を確認した。（前回確認：令和７年１１月２０日）

※第２０回目の放出は、Ｈ１東エリアＣ群のタンクに貯留しているＡＬＰＳ処理水が対象。東京電力では、放出に向けてＡＬＰＳ処理水を測定・確認用タンク（Ｂ群）に移送完了後、４月１３日から一週間の循環攪拌運転を経て、放出前の事前サンプリングを実施している。

・サンプリングは、サンプルタンク循環ポンプが設置されている多核種移送設備建屋（以下「建屋」という。）のサンプリングラインＡ系から行われた。（写真１）
・サンプリングは、事前に定められた手順書に沿って進められ、サンプリング中に水の溢れや飛散は認められず、安全かつ適切に実施された。（写真２）
・建屋入口付近に設置されたクリーンエリアでは、採取された試料（ポリ瓶）が仮置きされていた。エリア内では、ラベリングや封印処置が適切に施されていることを確認した。（写真３）
・当日、東京電力社員５名が協力企業作業員によるサンプリング作業に立会い、サンプリングラックの近傍において、作業手順に誤りがないか確認していた。また、サンプリングした試料をクリーンエリアに置く際に、水の

滴下がないか、採水容器に水滴が付着していないか等の確認を行っていた。



（図１）福島第一原子力発電所構内概略図



（写真１）
サンプリングラックのバルブ操作の状況



（写真２）
試料採水時の状況



（写真３－１）
クリーンエリアの状況



（写真３－２）
ラベリングの状況



（写真３－３）
封印処置の状況

５　プラント関連パラメータ等確認

確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。